

税収シミュレーションの目的

- ・ 少子・高齢化、人口減少社会に対応できる持続可能な税制のあり方について検討する資料とするため、都税調として 2040（平成 52）年までの税収シミュレーションを行うもの

【基本的考え方】

1 中長期的な展望

- ・ 今期の都税調は、各方面の有識者から、少子・高齢化、人口減少がもたらす社会経済への影響等について意見を聞きながら、税制のあり方について検討を進めてきたところ
- ・ 税収に対してはどのような影響をもたらすかシミュレーションを行い、一定の中長期的な展望に基づいて更に検討を深めていくもの

2 堅実な税収推計

- ・ このような長期の推計においては、人口や経済の動向についてどのような前提を置くかが結果を大きく左右
- ・ 政府や自治体が行う将来推計は、通常、政策目標の達成が前提
- ・ しかし、長期債務の累積が将来に対する懸念を高めていることを踏まえると、特に財政収入を制約する税制の検討において、自然体の税収見通しを参照する意義は十分あると考えられるところ
- ・ このため、過去の実績値等に基づく一定の前提を置いた堅実な税収シミュレーションをもとに、趨勢的な経済成長の下でも対応できるような税制のあり方について検討を行い、都民に問題提起しようとするもの